

環境に配慮したシカ侵入防止柵の開発

【研究概要】

都内において、植栽木をシカの被害から守るために設置されたシカ侵入防止柵の多くは、自然に還らないプラスチックなどの素材が使われており、撤去する際、地下部に埋まった支柱やネットの除去が極めて困難なため、林地に残ってしまう問題がある。この解決に向けて、自然に還る環境に配慮した素材、ポリ乳酸繊維のシカ侵入防止用ネットが市販されている。そこで、このネットの多摩地域における実用性を試験した。その結果、設置した4基のうち2基においてネットが噛み切られる被害が生じた。センサーカメラの画像から加害獣はタヌキと推定された。タヌキが啜えたと推定される痕跡の幅は、20mm であり、20mm より小さな目合いの場合、タヌキに加害されない可能性が示唆された。したがって、生分解性で45mm の目合いのネットは、多摩地域で使用できない。地際から高さ約60cmまでの部分を金網などの丈夫な素材を用いる、もしくは、20mm より小さな目合いのネットを用いる必要がある。